

2年生『哲学』シリーズ②

10月9日(水)

10月9日、5時間目に大正中学校での「哲学対話」の導入の前段階として、株式会社イミカの原田博一さんを本校に講師としてお迎えし、授業を行って頂きました。

授業のまず初めに、You Tube の動画を見せられました。内容はただの間違い探し。ワンテイクの中にいくつ変わったところがあるのかを探そうというものでした。生徒ら、そして見学に来られていた先生方にも聞いたところMAXで12個を見つけられた生徒がいました。しかし、間違いの総数はなんと21個!!ここからわかったことは、人間の視野というものは実は200°以上あるはずなのに、見よう見ようと集中することで逆に人間の視野は5〜10°にまで狭くなってしまいます。だからこそ同じものを見た人同士でそれを共有し、対話しながらより多面的・多角的にものごとをとらえ、深めていくことが大切です。道徳の中で言われる「多面的・多角的にものごとをとらえる」ためには、他者との対話が必要であるということがわかりました。

今日の授業の目玉は、VTS (Visual Thinking Strategy) というアメリカで開発された美術鑑賞法を用いて、対話をすることでした。1枚の絵を見て、その絵について感じたことなどを妄想も含めて対話するというもので、全く答えのない、自由な発想をグループで共有しました。1枚目は4人の男女がカードゲームをして楽しんでいるような様子の絵でした(これも筆者の見解ですが…)。



この絵を見てまず自分はどう感じたか、どんな絵だと思ったかを頭の中で言葉にします。そのあとに3人グループになって意見を共有します。その際に気をつけなければいけないと感じたことは、相手の意見を否定することはしてはいけないことです。様々な角度から見た絵に答えはありません。つまり正解も間違いもないからです。グループの中でも活発に意見交換がなされていました。この絵の見方で、3人对1人で見る人もいれば、3人で遊んでいて一人は召使いという見方の人もいました。描かれている人物の目を見てどんなことを思っているのだろうか、企んでいるのだろうかなど目一つとっても様々な見方ができます。

2枚目は言葉で言い表すには難しすぎる絵（図2）でした。



抽象画というか、モダンアートというか…その絵も同じように鑑賞し、意見を交流し合いました。本当に様々な見方があり、なるほど！そんな見方もあったのか！と思わせられました。例えば、人間の気持ちを表す絵だという人もいれば、ラピュタのロボットが見える、

NASA ように見えるという意見など様々ありました。この絵も、1 つ1つの要素をとらえる見方もあれば、全体を見てのイメージをとらえる見方もあり、なるほどなと思いました。

3 枚目には、鳥獣戯画の絵（以下）を見ての鑑賞をしました。



この絵に対して、カエルをいじめているという意見もあれば、カエルを助けているという意見もあつたり、カエルが悪者で、それを倒したウサギたちの「下克上」という声もあつたり、浦島太郎の構図に似ているという声もありました。

またこの作品にテーマをつけよう、という発問がありましたが、生徒の中には「ひっくりカエル」というお題をつけたり、なるほどなあとと思わせるものもたくさんありました。

本校では生徒第一声、集中 HR など自分のことを語るということを通して、自己開示※ができやすい土壌にあるのではないかと見立てをしています。この土壌があることで、自分の思っていることを言ってもいいんだ、自分の言葉は否定されないという空気は元々あるため、今日の VTS でも積極的に自分の意見をのべることができたのではないのでしょうか。とにかく、それぞれオトナも子どもも対等に共に学び合う空間ができました。「哲学対話」においても同じように共に学ぶ空間を作っていきたいです。 （文責：鶴田）

※自己開示・・・大正中では第一声や集中 HR で「自分を語る」ことをする。自分の生い立ちやしんどいことをクラスメートに語る。自分自身のことを知り自身の存在意義を考えると同時に、しんどさや生き方を共有することで、共にしんどいことに立ち向かおうとする集団づくりにもつながる。